

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
4年集中	4	1	教職必修
担当教員			
松本 直己			
添付ファイル			

講義概要	教育実習では、実習生といえども、生徒からは一人前の先生として扱われます。周到的準備をして臨めば、確かな手応えと教職のすばらしさを実感できるでしょう。逆に、準備不足や中途半端な気持ちで臨めば、直ぐにその姿勢や教師としての資質能力の適否を見抜かれることでしょう。 ここでは、事前と事後の実践的指導を通して教育実習がまさに教師になるための真剣勝負であることを学びます。		
授業計画	1	オリエンテーション（教育実習申込み、教育実習の心得、教育実習録の書き方等） （事前指導）	
	2	教育実習校の学校要覧・学校案内の研究（教育目標、教育課程、時間割、学校行事、指導教員等） （事前指導）	
	3	教材研究の進め方と学習指導案づくりの要点 （事前指導）	
	4	板書の要点及び授業評価の観点 （事前指導）	
	5	生徒理解と学級（ホームルーム）運営の要点 （事前指導）	
	6	教育実習録の書き方、教育実習評価表、事前の最終注意 （事前指導）	
	7	教育実習を振り返って（学習指導案と研究授業の分析ほか） （事後指導）	
	8	教育実習全般のまとめとレポート作成 （事後指導）	
授業形態	事前指導：講義と実習を中心に、適宜、学習指導案づくり、模擬授業（授業展開・板書）、授業分析、教育実習録の書き方等を取り入れ、学校における日常的教育活動を想定した実践的な指導を行います。 事後指導：教育実習を振り返って、その成果と課題を明確にし、今後の教職活動に役立つ指導を行います。 アクティブラーニング：①：4回, ②：4回, ③：2回, ④：0回, ⑤：0回, ⑥：2回		
達成目標	・教育実習の意義を理解し、必要な心得や教育実習録の書き方等を会得すること ・教育実習に臨む目標を明らかにし、意欲的に取り組むこと ・実習校の教育目標や生徒の実態を踏まえた学習指導案を作成し、研究授業を行うこと ・教育実習で得た成果と課題を明らかにし、教師としての資質・能力・適性等を見極めること ・学校における教育活動全般や生徒の人間形成に深く関わる教職の重要性を認識すること		
評価方法・フィードバック	授業への取組、発表、レポート等により総合的に評価します。原則として、レポート等のフィードバックは次回以降の授業内で実施する。		
評価基準	秀＝目標達成90～100％ 優＝目標達成80～89％ 良＝目標達成70～79％ 可＝目標達成60～69％ 不可＝目標達成59％以下		
教科書・参考書	『教育実習録』（大学作成）		
履修条件	教職志望者であること		
履修上の注意	教師（社会人）として必要なモラルやマナーを身に付けていること 学校教育に関するニュースや社会の動きなどに関心を持つこと		
準備学習と課題の内容	事前に教育実習校の学校要覧や学校案内を取り寄せ、その教育方針や教育課程、時間割、生徒・教職員等について把握しておくこと。（毎回、予習復習それぞれ1.5時間程度）		
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解:25%, 思考・判断:25%, 関心・意欲:25%, 態度:10%, 技能・表現:15%		
DP1 知識・理解			
DP2 思考判断			
DP3 関心意欲			
DP4 態度			

